

備前市事務事業評価シート

(平成21年度事業)

事業の概要			
事業開始年度		平成17年度～(新備前市分)	
総合計画	大項目	基本目標	03 地域文化と人が輝くまちづくり
	中項目	基本施策	02 生きがいのあるまちづくり
	小項目	施策	03 成人教育
事務事業名		02	奨学資金貸付事業
		根拠法令・例規等	備前市奨学資金貸付規則
		問 担当課(室)	生涯学習課生涯学習係
		合 職・氏名	係長 波多野 靖成
		先 電話	64-1841
		このシート作成に要した時間	3.5 時間

事業の目的	
対象 (誰・何に対して)	経済的理由により修学困難な高校生・大学生
目的 (何のために)	経済的理由により修学困難な者に奨学資金を貸付け、高校・大学に進学できる学習機会を提供することにより、将来社会に貢献し得る有益な人材を育成することを目的とする。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	備前市に有為な人材が経済的理由により、進学や修学の継続を断念することが無い状態。

事業の目的、対象、内容を考えてながら妥当性の評価を行って下さい

事業の実績			
目的を達成するために実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	奨学資金貸付金給付事業	第一種奨学資金：高校生月額1万円、大学生に月額2万円を無利子で貸付ける。 第二種奨学資金：高校生に月額3万円、大学生に月額5万円を年利1.475%で貸付ける卒業後は10年間で償還してもらう。	

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業費等		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績	
決算額	直接事業費		9,060	4,560	2,282	
	必要人員(人件費)	千円	0.22人	3,325	0.28人	2,125
	事業費		12,385	6,685	4,178	
	計					
財源	国県支出金					
	受益者負担					
	繰入金	千円				
	その他()					
一般財源		12,385	6,685	4,178		
受益者負担比率	%	-	-	-		
結果指標名		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績	
結果指標	説明					
	奨学資金新規貸付人数	人	1	4	2	
	対前年比	%	-	400.0%	50.0%	
	活動コスト	円	3,325,000	2,125,000	1,890,000	
単位当たりコスト		3,325,000	531,250	945,000		

事業の成果					
成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
奨学資金返還金収納率	目標値(A)	95	95	95	95
	実績値(B)	73	72	79	到達目標値
	達成率(B/A)	76.84%	75.79%	83.16%	95
成果指標設定の考え方・式や説明					
返還金収納率/返還金調定額 奨学資金返還金を財源とする健全な奨学資金制度を維持するため、返還金の滞納解消を指標とする。					

事務事業の評価		妥当性評価 <A-E>
妥当性の評価	市の関与の妥当性	C
	市民ニーズ	
効率性の評価	コスト	D
	手段	
有効性の評価	目的達成度	C
	市民参画度	

留意しながらその数値目標を達成して下され

進行年度(H22年度)の改革改善内容						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	平成22年度も、新規の奨学生として第一種4名程度、第二種5名程度の募集を行っている。					

総合評価		評価区分 <A-E>
奨学資金は、経済的理由により進学・修学が困難な学生を支援するものであり、将来社会に貢献し得る人材を養成することを目的とするものであるから、事業の実施は妥当であると考えられる。成果指標の返還金収納率については、返還金を財源として奨学資金制度を実施していることから設定は妥当であると考えられる。		C

平成23年度の方向性及び取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
取組目標	第一種、第二種制度の併用が事務量増加の一因となっている。今後、貸付制度の見直しを検討する必要がある。					